

AIDSネットワーク横浜 ニュースレター

発行：特定非営利活動法人 AIDSネットワーク横浜

〒231-0015 横浜市中区尾上町 3-39 尾上町ビル 9F

TEL：045-201-8808 fax：045-201-8809

ホームページ <http://www.netpro.ne.jp/any/>

e-mail：any@netpro.ne.jp



第31回定期総会のご報告

日時：2023年6月17日（土）13時～

会場：横浜AIDS市民活動センター



第31回の定期総会が6月17日（土）に開催され、すべての議案が承認されました。ANYは、1993年2月の発足から今年で30歳の節目を迎えたこととなります。

笹田理事長から「31回目の総会を迎えることができました。ここまで大きな問題もなく行っていくことができました」と、今までの会の歴史を振り返り、会員へのねぎらいのお言葉がありました。

1993年2月に発足した当会の歴史を紐解くと、その年の12月には土曜日電話相談を開始しています。マンションの一室に間借りしての電話相談は、電話相談員の養成をはじめとしてのご苦労は並大抵ではなかったと思います。

また、1995年11月には第1期ボランティア学校を開講しています。

ボランティア学校を修了して入会された会員も多かった時期です。理事長をはじめ多くの草創期を支えられた先輩方のお力で

今日に至っていることを改めて実感します。

2005年には「親と子のいのちの性の教室、がらくた座公演」を開始しています。横浜市内18区全ての会場を巡回した事業は2011年まで6年間に亘りました。その他、街頭キャンペーンやアンケートの実施、HIV啓発の映画上映など多岐にわたる活動を行ってきました。

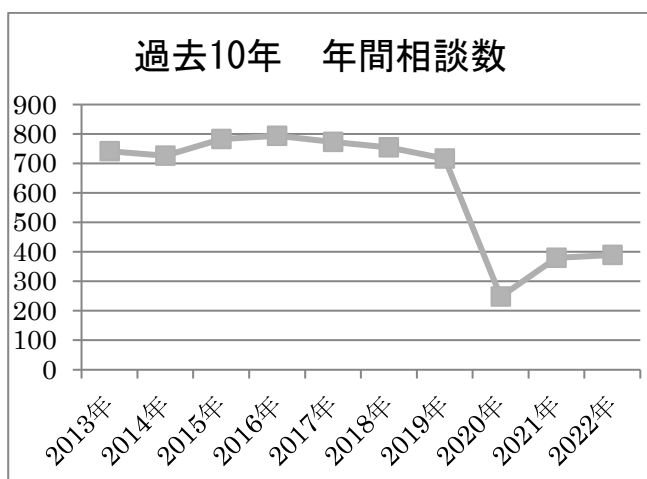
一口に30年といっても、発足当初からの会員は30歳の年齢を重ねてきたことになります。会員個人個人の家族の歴史の中でも大きな変化があったことが容易に想像できます。

現在、電話相談は、水曜日・土曜日の週2回を途切れることなく運営しています。誇れる事業だと思います。今回の総会は、ANYの次なる活動を考える機会にもなりました。高齢化と多忙化の中ですが、現在できている活動に誇りをもって歩んでいきましょう。（中野久恵）

2022年度事業報告より・・・電話相談の傾向について

電話相談事業は、横浜市委託事業として、毎週水曜日（17時～20時）、土曜日（14時～17時）に開設している。年間98回を実施。従事したスタッフ延べ261人。相談件数は、昨年度より若干増加した。年齢層は20代が最多である。

項 目		件数
開催回数		97
相談件数		397
相談 主 訴	感染不安	252
	検査不安	25
	情報	103
	その他	39
性 別	男性	352
	女性	45
	トランス	0
相談 者 の 年 代	10代	18
	20代	123
	30代	72
	40代	109
	50代	35
	60以上	8



AIDSネットワーク横浜
電話相談 045-201-8808
水曜日:17時～20時
土曜日:14時～17時

お知らせ・・・感謝申し上げます

2022年度、当団体へご寄付をいただいた方

いただいたご寄付は、A N Y のさまざまな活動に活用させていただいています。
ここにお名前を掲載し、感謝申し上げます。

サンセット 21 ライオンズクラブ様 石井史恵様

☆ 会員の皆さまへ 会費納入のお願い

払い込み先：ゆうちょ銀行

加入者名：N P O 法人 A I D S ネットワーク横浜

口座記号番号：00230-1-135371

会費：一般会員 6000 円 学生会員：3000 円 賛助会員：5000 円

PrEPをめぐる現状と課題

「HIVの新たな予防方法 PrEPの登場と新たな動き」について生島嗣氏（ぷれいす東京代表）の論考を紹介します。（引用：『季刊セクシュアリティ 107』2022.7 発行エイデル研究所）

PrEPをめぐる現状と課題

PrEPとは、Pre-exposure prophylaxis の略。リスクのある行為に備え、前もってHIV予防薬を内服する予防方法のこと。2012年米食品医薬品局（FDA）は、HIV治療薬「ツルバダ」を感染リスクの高い人向けのHIV感染予防薬として承認した。欧米だけでなくアジアでも国策としてHIV／エイズ対策に取り入れている国があります。台湾では、PrEPを積極的に取り入れることで、新規のHIV陽性者の報告数が右肩下がり減少カーブを描いている。

生島は、日本での現状を把握する目的で、MSM（男性と性行為をする男性）を対象に2018年と2021年の2回、Webにより「セックスライフとPrEPに関する調査」を行った。

【回答者の属性】

・シス男性：98.4% 98%：ゲイ・バイセクシュアル男性と自認

*注：シス男性とは、自分自身を「男」と認識し、さらに生まれ持った性別も「男」である人。

・年齢は15～39歳で53.5% 平均38.4歳

・居住地：全国、日本国籍：97.7%

【回答者中のPrEP使用者】

・2018年の調査では2.2%だったが、2021年8.5%へ上昇。

・回答者の8割が過去半年にアナルセックスをしていた。

・コンドーム不使用のアナルセックスは過去6カ月に5割以上が経験。

・PrEP利用者の8割がインターネットから購入。

・海外から価格の安いジェネリック薬を内外の業者や海外NGOから購入。

・PrEP開始前にHIV検査で陰性を確認していない人、定期チェックをしていない人が存在。

・PrEP使用中に石による副作用チェックをしている人は版数。

・PrEPを使うとしたら、約5割がコンドームを使わなくなるとの回答。

【PrEP利用者（n=572）のPrEPを始めた理由】

・相手に頼らず予防をしたかったから：61.2%

・HIV感染が気になってセックスを楽しめなかったから：60.3%

・多数の相手とセックスをするから：59.3%

・自分がコンドームを使いたくないから：6.1% （文責：中野久恵）

第30回**AIDS文化フォーラム in YOKOHAMA**
未来をみつめて

ANYは次のプログラムを担当します。ぜひ、お出かけください。

日時:8月5日(土)10時～12時

会場:かながわ県民センター303号室

テーマ:HIVと妊産婦への切れ目のない支援

講師:水主川 純(東京女子医科大学 産婦人科)

第30期 2023**AIDSボランティア学校プログラム**

第30期 2023AIDSボランティア学校は電話相談のスキルアップ講座として下記内容にて開催します。会員の方はぜひご出席ください。

	開催予定日	時間	テーマ及び講師(所属)
横浜AIDS市民活動センター	8月26日 (土)	13時～15時	免疫とHIVについて 堀尾吉晴(AIDSネットワーク横浜)
	9月2日(土)	13時～15時	いろいろな性 安達倭雅子(“人間と性”教育研究協議会)
	9月30日 (土)	11時15分 ～16時15分	HIVの現況と治療水準 小島 賢一(荻窪病院血液科 臨床心理士)